

## 「カーボンニュートラル」

2020年10月、当時の菅内閣総理大臣は所信表明演説において「我が国は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

### 1. 「カーボンニュートラル」とは

「カーボンニュートラル」とは、本来は植物の成長過程における二酸化炭素（以下：CO<sub>2</sub>）吸収量と燃料として消費される過程におけるCO<sub>2</sub>排出量がニュートラル（中立）であることを指す環境用語です。近年では、地球温暖化の主な原因のひとつである温室効果ガスの排出量を抑え吸収量との間の均衡を保つ、つまり実質的に「全体としてゼロにする」といった概念のことを「カーボンニュートラル」「脱炭素社会」などと呼んでいます。

### 2. 「2050年カーボンニュートラル」

地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、2015年の「パリ協定」において世界共通の長期目標として以下の2つの目標が掲げられました。

- ▶ 世界の平均気温の上昇を産業革命前と比べて2.0℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする
- ▶ 21世紀後半には温室効果ガスの排出量と吸収量のバランスをとる

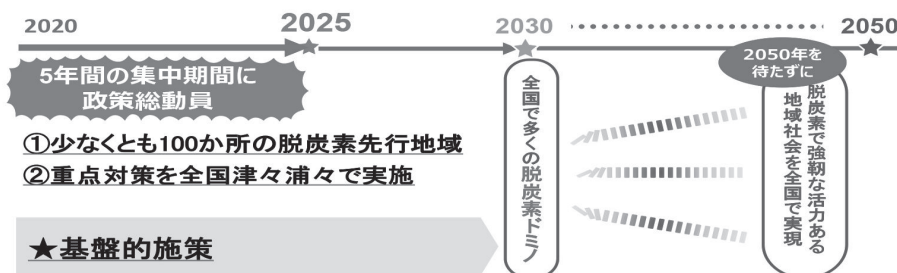
この目標実現を目指す動きが国際的に高まっており、2021年1月現在では日本を含む124カ国と1つの地域が「2050年カーボンニュートラル」の実現を表明しています。

### 3. 日本国内での取り組み

2021年6月9日に第3回国・地方脱炭素実現会議が開催され、『地域脱炭素ロードマップ～地方からはじまる、次の時代への移行戦略～』が決定しました。

ロードマップでは特に2030年までに集中して行う取り組み施策を中心に、地域の成長戦略ともなる地域脱炭素の行程と具体策を示しています。これから5年間の集中期間に政策を総動員し、少なくとも100カ所の脱炭素先行地域を創出し、重点施策を全国津々浦々で実施することで、地域で次々と脱炭素を実現していく「脱炭素ドミノ」を生み出していくこととし、2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度から46%削減することを目指しています。

図表1 地域脱炭素ロードマップの概要（資料：環境省 脱炭素ポータル）



## 閑話ひとつ

- ▶ 6歳になる柴犬を家族の一員とする我が家では、テレビやSNSなどでペット動画をみることを楽しみにひとつにしていますが、最近では犬と猫が仲良く暮らす様子や犬が猫の尻に敷かれているような場面をよく目にします。
- ▶ 「ドラえもん」や「トムとジェリー」をみて育った世代の私にとっては、犬・猫・鼠は相容れない関係の象徴でしたが、いまや『猫に鼠がかみつく』といったアニメのような1コマはそれほど珍しいことではなくなってきたのでしょうか。
- ▶ 「ドラえもん」と言えば、四次元ポケットから22世紀の「ひみつ道具」がたくさん登場しますが、21世紀となった現在においてスマートフォンやドローンなど、そのいくつかはすでに実現しています。
- ▶ 私の友人が小学校時代の卒業文集に「21世紀に欲しい道具」を書き記していましたが、友人が切に願った「自動カメモシ除去機」は残念ながら現在も実現に至っていません。みなさんが子どもの頃に欲しいと願った「ひみつの道具」はもう実現しましたか？  
(KS)